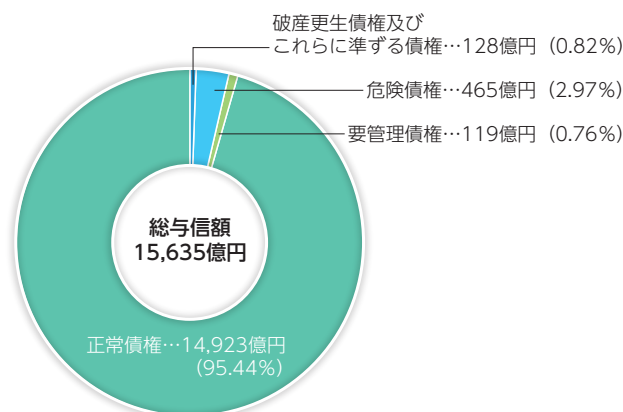


資産の健全化

金融再生法に基づく開示不良債権の総額は、危険債権の減少等により、前年度末比33億円減少し712億円となりました。これにより資産査定の対象となる貸出金や債務保証等の債権総額（総与信）に占める割合は、前年度末比0.13ポイント低下し4.55%となりました。

なお、貸倒引当金や担保・保証等による保全率は85.3%と十分な水準を確保しております。（総与信額には、貸出金の他、支払承諾見返、銀行保証付私募債、外国為替、貸出金に準ずる仮払金、未収利息を含んでおります。）

総与信に占める金融再生法に基づく開示債権の割合（平成25年9月末）
（金額は四捨五入で表示しています。）



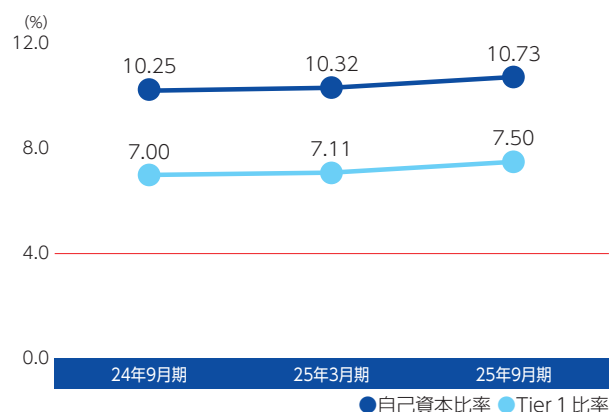
自己資本比率(国内基準) [単体]

自己資本比率は前年度末比0.41ポイント上昇し10.73%となりました。国内基準の4%はもとより、安全とされる8%を大きく上回っており、健全性は十分確保しております。また、Tier 1比率につきましても前年度末比0.39ポイント上昇し7.50%となりました。

●Tier 1比率

銀行の自己資本比率の算出において、中核的な自己資本である資本金、資本剰余金、利益剰余金などの合計をリスク資産で割った数値指標です。

自己資本比率(国内基準)とTier 1比率



「格付」について

「格付」は企業の信用度や債務履行の確実性などを簡素な記号で表わしたものです。

格付機関により企業の財務内容や収益力が総合的に判断されます。当行は日本格付研究所から格付「A⁻」を取得しております。長期格付「A⁻」は「債務履行の確実性は高い」とされており、健全な銀行としての評価を得ております。

AAA	債務履行の確実性が最も高い。
AA	債務履行の確実性は非常に高い。
A	債務履行の確実性は高い。
BBB	債務履行の確実性は認められるが、上位等級に比べて、将来、債務履行の確実性が低下する可能性がある。
BB	債務履行に当面問題はないが、将来まで確実であるとは言えない。
B	債務履行の確実性に乏しく、懸念される要素がある。
CCC	現在においても不安な要素があり、債務不履行に陥る危険性がある。
CC	債務不履行に陥る危険性が高い。
C	債務不履行に陥る危険性が極めて高い。
D	債務不履行に陥っている。

AAからBまでの格付記号には同一等級内での相対的位置を示すものとして、プラス(+)もしくはマイナス(-)の符号による区分があります。

